

博多祇園山笠振興会 (はかたぎおんやまかさしんこうかい)

代表者	会長 瀧田 喜代三 (たきた きよぞう)
所在地	〒812-0026 福岡市博多区上川端町1-41 博多総鎮守 櫛田神社内
設立年月日	1955年1月28日
URL	http://www.hakatayamakasa.com/

【設立趣旨】

戦後、一時期中断していた「博多祇園山笠」は昭和23年に一部復興したが、この祭り行事を戦後の復興の核とするため、各流を単位とする地域住民が一致団結して、翌年「博多祇園山笠振興期成会」が誕生した。

その後、期成会は祭りの一層の充実を図るため、昭和30年1月28日の総会で発展的に解散し、新たに「博多祇園山笠振興会」が誕生し、祭りの伝統保存とともに、「国際文化都市博多の観光価値を高めること」なども目的とされた。

【沿革】

祭り行事には地元住民が中心となり約8000人も参加するなど、地元地域のコミュニティづくりや活性化に大きく寄与している。また、様々な行事において、博多祇園山笠振興会を中心に各流が一致団結して昇き山笠や飾り山笠の展覧を行うなど、国内外に「福岡・博多の心意気」をPRし、イメージの向上に貢献している。また、こうした活動の成果もあり、祭り期間中には約300万人の見物客の動員を得ている。

- ※昭和53年10月 全国郷土祭 (東京都)
- 昭和55年9月20日 アロハ・ウィーク・フェスティバル (ハワイ・ホノルル市)
- 昭和63年5月 国際レジャー博覧会 (オーストラリア・ブリスベン市)
- 昭和63年5月 ジャパン・ウィーク (ニュージーランド・オークランド市)
- 平成元年7月8日 アジア太平洋博覧会 (福岡市)
- 平成2年9月13日 国際花と緑の博覧会 (大阪市)
- 平成6年7月24日 全国祇園祭山笠巡行 (京都市)
- 平成7年9月3日 ユニバーシアード福岡大会 (福岡市)
- 平成12年7月 九州・沖縄サミット福岡蔵相会合 (福岡市)
- 平成13年7月 世界水泳選手権大会 (福岡市)
- 平成16年9月 福岡市民クルーズ三都航路 (中国南京市)
- 平成17年9月 全国都市緑化ふくおかフェア (福岡市)
- 平成17年10月 地域伝統芸能全国フェスタ (酒田市)
- 平成17年11月 ねんりんピックふくおか2005 (福岡市)



ジャパン・ウィーク

【活動上の課題と今後の展望】

博多祇園山笠の特徴として、老若男女すべてが、祭りに関わっていることである。その一つが町ごとに子供、若手、中年、年世路が分けられ、それぞれが体力にあった役目を分担する「年齢階梯制」がある。若手と中年が中心となって動かす昇き山笠、それを取りまとめる取締、そして流委員、町総代など、役割を分担している。

また、博多の子供たちは、生まれた時から山笠を味あう。赤ん坊に法被を着せ、大事に抱えられ山笠の風を肌で感じるのである。物心つく前から山笠に参加し、走れるようになると「先走り」として山笠の前走りを、小学校高学年になると「招き板」を持って誇らしげに走る。山笠を通して子供たちには礼節が厳しくつけられるとともに、さまざまな習わしや作法が親から子へ、そして孫へと代々受け継がれ、青少年の健全育成、地域文化や町の活性化に大きな役割を果たしている。

このように祭りを通じ自治の精神の高揚をもたらす住民自治の象徴的な博多祇園山笠は、福岡市を代表する祭りとして、毎年期間中に300万人を超える観客を迎えている。また、福岡市などの要請により、ハワイのアロハ・ウィークフェスティバルへの参加やオーストラリア、ニュージーランド及び中国上海での山笠披露をはじめ、「国際花と緑の博覧会」(大阪市)や平安建都1200年行事の「全国祇園祭山笠巡業」(京都市)などに参加し、国内外の多くの観客に博多祇園山笠の勇壮豪快さを披露することにより、福岡市の国際化振興、観光振興に協力を続けている。



H18 飾り山写真 (櫛田神社)



H21 櫛田入り写真



子供山笠流がき



集合写真



昇き山笠の櫛田入り

【活動目的と活動内容】

博多祇園山笠の起源については、1241年(仁治2年)、鎌倉時代の高僧、聖一国師が宋から帰国し、当時博多の町に流行していた疫病を鎮めるため、町人の担ぐ施餓鬼棚に乗って甘露水(祈禱水)を振りまいて祈禱して回り、その功德により病魔を退散させたのが始まりといわれている。760年を超える歴史と伝統を誇り、1979年(昭和54年)には国の重要無形民俗文化財にも指定された。

絢爛豪華な飾り山笠が立ち、締め込み、法被姿の男たちが勢い水を浴びながら疾走する勇壮豪快な昇き山笠、博多っ子気質そのものを反映し、博多の人々にとって生活そのものだが、現在に至るまで決して平坦な道のりではなかった。幾度となく戦禍や天災、人災などの難局にあい、中断を余儀なくされたが、人々のパワーと時代時代に合った工夫により、商都博多に脈々と受け継がれ、今日では、「山笠があるけん!博多たい!」とまで言われている。